



2022年12月29日放送

## 日薬アワー FIP(国際薬剤師・薬学連合会議) ・FAPA(アジア薬剤師会連合学術大会)報告

日本薬剤師会  
会長 山本 信夫

この9月に開催された、FIP 国際薬剤師・薬学連合の総会と11月に開催された FAPA アジア薬剤師会連合の総会の要旨について報告したいと思います。

### FIP2022 /第80回国際薬剤師・薬学連合国際会議

#### 80th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2022

まず、FIP からですが、3年ぶりの開催になります。2020年にセビリアで開催が決まっていたのですが、コロナの感染拡大の影響で延期になり、会場は変わらずに2020年・2021年と延期されていて、2022年に入り3月末ぐらいから現地で開催をするという案内が来ていました。

会合としては3年ぶりになりますが、欧州の感染状況や日本の感染状況等もあり、なかなか参加することに躊躇したわけですが、7月・8月と過ぎていくうちに、欧州の雰囲気も変わって参りました。我が国では、まだまだ出入国について大変厳しい規制がかかっていた時期ですが、出入国については一定程度のコロナのワクチン接種が済んで、出られることになりましたので、行って参りました。

従来と違っていたのは、まだコロナが十分に収まりきっていないこと、それからウクライナで3月末から戦争が始まってしまった関係で、航空ルートの変更もあり、飛行機が大変タイトなスケジュールになったことが今までと大きく違ったところです。

セビリアという街は、日本で考えると、例えば東京を中心として群馬県の高崎といった距離になりますので、マドリードあるいはバルセロナから見ると少し距離がある場所ですので、ローカル線でしか飛んで行けないという不便さはありませんでしたが、大変古い街ですので、

街の中が極めてヨーロッパ的で雰囲気も良く、安全な街でした。

どのくらいの方々が参加されるのか気になっていましたが、先方からの事前連絡では「2,000人以上来るから心配ない」という話でしたが、予想通り2,300名の参加登録があり、従来ですと日本人の参加が100名近くありますが、今回はコロナの状況もあって13名の登録しかありませんでした。大変少ない人数ですが、それぞれの団体、また必要な方々が参加されていたということです。

9月16日に理事会があり、その後、17日に日本で言えば総会のようなものが開かれて、会長・副会長の交代選挙がありました。会長には、これまでのスイスのDominique Jordan氏からオーストラリアのPaul Sinclair氏に代わり、副会長の3人が交代するという状況でした。

会議のテーマで何が中心だったかという点、毎年 typical な話になるわけですが、やはり今回は世界中を巻き込んで2年の延期を余儀なくされたコロナの関係、COVID-19をどうするか、コロナに対して薬剤師がどんなことをしたのか議論が進み、今後コロナとどう付き合っていくかということが大きな課題になっていました。

もう一点は、やはり日本と同じように規制改革の波が押し寄せているようで、それについても「一体どうしたら薬剤師の役割を守れるんだ」「薬剤師の仕事を守れるんだ」という議論がなされています。いくつかのシンポジウムに招かれていたので聞いてきましたが、どれをとってみても、日本と同じような状況にあるということを改めて感じました。そういった意味では、これまで遠くにあったグローバルな視点でのFIPとの距離が、だいぶ縮まったような気がします。日本がそれだけ進歩したのか、あるいはそうでないのか、その辺の評価は参加された方々がそれぞれお感じになっていると思いますが、私の個人的な感想では、仕事の中身が段々欧州のようになってきた、あるいは、かつてのいわゆる薬剤師の原点に戻って仕事ができるようになってきたということが、その距離を縮めたことなのだろうと思っています。制度や仕組みが全く違いますので、完全に同じというわけにはいきませんが、だいぶ縮まったという感じを持ちました。

その一方で今回、理事会の中で大きな課題になったのは、2年間の休みがありましたので、会員の増強と会費をどうするかという議論があり、これは日本薬剤師会も同様に会員の増強というのは大きな課題ですが、会費の立て方あるいは会費の徴収について、大きな課題として議論されています。お金のかかる問題ですから、なかなか容易ではないでしょうが、組織を強くし世界の薬剤師が集まるという意味では、なるべく沢山の方に参加願いたいと思いますし、それが大きな課題だと思っています。

2023年はブリスベンで、2024年は少し遠くなりますがケープタウンで開催されます。まだ2025年以降は決まっていますが、ブリスベンもケープタウンもそれぞれ良い街ですし、

ぜひ参加していただければ大変嬉しく思います。

## **FAPA2022 /第 28 回アジア薬剤師会連合学術大会**

### **The 28th Federation of Asian Pharmaceutical Associations Congress**

次に、FIP の 9 か月後に開かれました FAPA ですが、2022 年の 11 月 8 日から開催されました。8 日に Council が開かれて、これはマレーシアで 2020 年に開催される予定が、コロナの関係で、マレーシアが国境を閉鎖してしまったことで、4 年に一度の会が更に 2 年延ばされて、ずいぶん間があいた会議となっています。

大きな課題になったのは役員選挙で、既に役員任期が切れていますので、その選挙を行うということになります。2020 年にコロナが始まってすぐに、前会長の Dani Pratomo というインドネシアの方がコロナで亡くなるという大変悲しいことがあり、そのときの副会長の Yolanda Robles というフィリピンの方が会長代行をしていました。

したがって 22 年の開催では会長は自動的に Yolanda Robles さんが起用されましたが、その後の次期会長、それから 5 人の副会長をどう選ぶかということで選挙が行われました。選挙方法も様々あり、Face to Face の会が可能かどうかという議論もあり、事前に電子投票の形で選挙が行われて、次期会長には台湾の Chan 先生が信任され、副会長には 5 名の方が当選されました。その中には日本薬剤師会の副会長をしています安部好弘先生が向こう 4 年間 FAPA の副会長として、これまで山村重雄先生が続けておられた後をしっかりと守って日本の Presence を示すという立場になります。

テーマは、やはり COVID-19 がもたらす多く、薬剤師がどんな仕事をしてきたのか、薬剤師の役割は何だということと同時に、その一方で基本的な薬剤師の役割は GPP (The Good Pharmacy Practice) ということで、それをどう進めていくかという議論が二つ、三つのシンポジウムで進んでいました。やはりコロナに対しては薬剤師の役割が大きいということで更に努力すべきだということが一点。

もう一点は FAPA の新入会員で、これは薬剤師会が入るんですが、少し規則を変えてはどうかということで、まだ十分に議論がされていませんが、台湾が新たに台湾薬剤師連合というのを作って参加をするという形になっていますので、しばらくこの問題は、FAPA の中でも大きな議論を呼ぶだろうという予測をしています。

そんな中で会議が終わったわけですが、次の会議は、2022 年にマレーシアで開催されたので、2024 年の開催地が普通は決まる場所ですが、今回は 2020 年が延期をされて 2022 年にマレーシアになったという 2 年間のブランクがあいています。

FAPA の場合、会を開くことが収入源になりますので、2 年間のブランクが大きいということもあり、今回は緊急的に 2023 年に台北で FAPA のスペシャルイベントをし、さらに 1

年後の 2024 年にこれは正規の会合になりますが、ソウルで開くということになりました。これも 2023 年が要るか要らないかとか、FAPA の冠を付けるかどうかということに様々議論がありましたが、スペシャルイベントということで 2023 年台北、2024 年がソウルということで確定をしています。通常、日本から出している石館守三先生の名前を取った「石館賞」については、2023 年はスペシャルイベントですので提供はせず、2024 年に提供するということになりました。

台湾は近いですし、割と日本に Familiar でするので良いのではないかと思いますし、ソウルは 1 時間ほどで飛んで行けますので、ぜひお時間があれば沢山の方に参加をしていただきたいと思います。その時にコロナが収まって本当に自由に Face to Face の会議ができれば大変良いなど、そんな感じをもって帰ってきました。

やはり FIP/FAPA は外に向けての外国との窓になりますので、多少お金もかかりますけれども、皆さん折がありましたら、時間を作って参加をされて外国の薬剤師と交流すると、日本がどの位置にいるのかということを確認につかむ良い機会になると思っていますので、どうぞ機会がありましたら参加してみてください。